

議会市民懇談会報告書

平成28年7月21日

山陽小野田市議会議長 尾山信義様

総務文教常任委員長 河野朋子

山口東京理科大学薬学部設置促進

並びに利活用調査特別委員長 伊藤 實

平成28年6月27日開催の議会市民懇談会の実施状況について下記のとおり報告いたします。

記

1 開催日時

平成 28年 6月 27日 (月) 19:00 ~ 21:10

2 開催場所

厚狭地区複合施設

3 申請団体等名称

やまぐち未来創造会議 (代表 古谷嘉彦)

4 参加人数 (市民)

15 人

5 テーマ 山陽小野田市の教育について

① 市立山口東京理科大学

② 学校給食センター

③ 埴生小中連携

6 担当議員名

(河野朋子) (中島好人) (岡山 明) (河崎平男)

(笹木慶之) (伊藤 實) (長谷川知司) (岩本信子)

(杉本保喜) (中村博行) (山田伸幸) (吉永美子)

7 懇談会式次第

- (1) 主催者開会挨拶
- (2) 議員代表挨拶及び参加議員自己紹介
- (3) 懇談会の進め方、注意事項説明
- (4) 意見交換会（各項目別にて、現状報告から説明）
- (5) 閉会挨拶

8 意見交換の主な内容

① 現状報告 市立山口東京理科大学について

定員割れを続けてきた学生数は、公立化を発表後、志願者が激増した。定員200人に対して今春は4,600人の志願者があった。メリットとして、授業料が約半減なることで負担の軽減が大きい。今後の課題としては、薬学部設置に伴う認可申請の必須条件である教授陣の人員確保、建設場所に係る宇部市との土地問題等の解決が残されている。総額110億円、校舎80億円という大変大きな事業であり、9月議会に予算案が出される状況にあり、議会として慎重審査で進めたい。

(質問) どこに出来るのか。 学生の環境整備は万全か。

(議員) 当初厚狭駅前（新幹線口側）にとの案があったが、市有地だけでは大学設置に必要な土地が狭すぎた。結果として、現在地の東側に薬学部の建設の話が進められた。私学時は、学生の6割の方が宇部市に在住。今年の新入生は逆に、市内に6割の方が在住する結果となっている。公立化に伴い、市内のアパート建設等の活性化が促進されている。

(質問) 今までの大学の姿を見ていると、行政側がどれだけ関わりを持ってきたか疑問を感じる。大学を活用した将来のまちづくりについての思いはどうか。

(東京理科大学薬学部設置促進並びに利活用調査特別委員 各位が一言発言)

山田伸幸、岩本信子、杉本保喜、中村博行、吉永美子、長谷川知司、伊藤 實
各議員より

(質問) 東京理科大学の紹介ポスター等アピール不足である。

(議員) まちづくりを進めるためにも、市民を巻き込む必要がある、行政側との連携をしっかりと図ってまいりたい。

② 現状報告 学校給食センターについて

給食センター建設場所として、西高泊字二西大塚（大塚工業団地内）、5500食。共用開始予定は、平成29年2学期であったが、1年延びて、平成30年2学期に

延期した。理由としては、労働者、建築資材不足によるものである。

(質問) 九州熊本地震への影響はどうか。

(議員) 今のところ影響はない。

(質問) 給食センター建設に伴い、マイナス要因の対応はどうか。

(議員) 親子方式への請願があったが、まずは、アレルギー対応の整備をしっかりと進めていく。運営面における見直し等、今後設置される学校給食運営委員会で検討するためにも、早期の運営委員会の設置を要請する。

(質問) 運営側の組織体制がそろっていないのではないかと、予算は賛成したものの、その後、建設延期等あり、追跡調査は継続されているのか。

(議員) 決めてしまっていて、その後どうなっているのか、そういった声に委員会として、積極的に検討していなかったと反省している。共用開始予定時期が1年延びたが、学校給食運営委員会の設置は1年前倒しで、設置を再度要請する。

(要望) 給食センターはできたものの、メンテナンスには余分な予算は掛けない、これが今までの対応、実績です。アレルギー対応等、メンテナンスを含めしっかりと子供たちの命を守るための予算を計画的に継続してほしい。

(質問) 給食センターの防災に対する対応はどうか。

(議員) 基本的には、災害に対する対応はしない。設備が施されていない。

③ 現状報告 埴生小中連携について

埴生小中は連携校として、まずは、中学校の敷地内に小学校を建設する方向で進められている。それに付随して、中学校に隣接する場所に複合施設を建設する計画案が出されているが現在は保留している。改めて7月臨時議会で提出されるようである。

(質問) 埴生、厚陽小中校を含め児童生徒数が減少している中で、厚陽小中連携校に伴い、人口減少問題等の検証がなされているのか。

(議員) 厚陽小中連携校については、学校関係者より教育評価の検証がなされ、教育委員会ではこの検証を数値化することで、今後の取組について検討する予定である。現在評価検証待ちである。

(質問) 厚陽小中学校の教育評価の検証段階であるにもかかわらず、なぜ埴生小中連携校が進められたのか。この検証、評価が反映されるのか、作りっぱなしにな

らないか。

(議員) 連携校としての要望は、中学校のグラウンド拡大が必要。通学路の安全確保等が問題視された中、グラウンドの購入はしない方向であったが、そこへ複合施設との絡みが出てきた。そうした状況の中でグラウンドの購入が図られ、環境整備が進められた。ハード面の課題はあるが、小学校校舎の耐震化が待ったなしの状態であり、まずは予算の確保をした。

(議員) 埴生複合施設については、当初青年の家からスタートしたが、津波の問題、まちの中心地としての位置等により、計画案の中学校前の土地で検討された。津波の問題等が回避されたことで、おおむね地域の方の合意が図られたということで提案された。提案理由の合意が本当に図られているのかとの疑問があり、結果として修正案が出された。その後埴生地区5か所での市民懇談会を開催し、地域住民の声を確認した。その結果、議員全員執行部案に対し、合意は認められないということで一致した。この件については、7月の臨時議会で予算案が出される予定である。

(質問) 合併特例債の期限はいつまでか。

(議員) 現時点では議案の内容がわからないので回答はできない。東京理科大学でこの合併特例債の運用も考えられる。

(要望) 学校給食に関して、教育委員会に不信感を感じている。今回教育委員会から、厚陽小中連携校の教育評価の検証が出された。この検証に対する今後の取組について検討する予定であると言われていたにもかかわらず、今まで声を出してきたが反映されていない。子供のことを考えていないのが現状であり、最後の砦である、議員の皆さんで最終判断、検証をしっかりと進めていただき、埴生小中連携に生かしていただきたい。

(質問) 大規模学校にまとめる構想はないのか。

(議員) 学校の適正規模、適正配備が推進されている。それを基にビジョン、将来像が進められているが、長期的ビジョンに対する不安を感じているのが現状である。

(質問) 連携校、複合施設に伴い、教育環境をどう守るか。

(総務文教常任委員 各位に一言発言) 岡山 明、河崎平男、笹木慶之、中島好人、河野朋子 各議員より